序

熊本野生生物研究会　会長・会誌編集委員長
坂田拓司

このたび，本会の会誌も 12 号を発行するはこびとなりました．私が編集委員長として関わらせていただいて 10 冊目となります．今回は，自分自身にとって長い間宿題となっていた「熊本城のオヒキコウモリ」の原著論文執筆や，過去最大となる 100 ページを超す編集作業で苦労する日々です．この「序」の執筆段階でも切羽詰まった状態ですが，今になって「『鳥の目』と『虫の目』」という座右の銘を思い出した次第です．

これは，20 年ほど前のことですが，ある講演会で「『鳥の目』と『虫の目』の両視点を持つことが問題解決や新たな発見につながる」という話を聞きました．『鳥の目』は広い視野をもち大所高所から物事全体を見つめる視点，『虫の目』は低くて近い位置から物事の詳細を見つめる視点です．それ以後，「この二つの視点を座右の銘にしよう．忘れないようにしよう．」と思っていますが，一番肝心なときにこのことを忘れてしまう自分が情けなく思います．最近，この二つに加えてもう一つの視点があることを知りました．それは『魚の目』（足の裏などにできる「鶏眼」ではありません）です．これは時代の流れをとらえて先を読み，状況に合わせた行動をとる視点です．

会誌制作という本会にとって重要な事業に取り組むに当たって，投稿論文の確保や発行計画の進行，印刷費の削減など，目先の課題にとらわれていました．いずれも大切なことです．しかし，先ほどの三つの視点を念頭に置くと，もっと取り組むべきだったことや逆に省いてもよかったことに気づきました．取り組みの最中に自分で気づくことは難しく，審査（査読）委員や編集委員をはじめ，多くのみなさまからあたたかいご助言を頂いたときにハタと気づきました．この場をお借りして改めて感謝申し上げます．

さて，本会は来年（2025 年），設立 40 周年を迎えます．現在，熊本県における森林生態系分野の研究や保全をテーマにするシンポジウムの開催を検討中です．会員外へ広く参加を呼びかけようと考えています．会誌 13 号はこれらの周年事業の総括を含めた 40 周年特集号とする予定です．もちろん，従来どおり、会員のみなさまからの報文も募集します．会誌は地域の野生生物に関する知見を集め，生物多様性の保全に寄与する情報を発信する場です．また，お互いの切磋琢磨の場でもあります．会員のみなさまには現在の取組みをぜひ投稿してください．今後ともよろしくお願いいたします．

2024 年 6 月吉日